



れいわ ねんど よこはましりつ みやがやしょうがっこう がっこう
令和8年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 9月号

みやがや

がっこうきょういくもくひょう
～学校教育目標～

じぶん み 未来をつくる子
自分を見つめ ともに

- 【知】 響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子
- 【徳・体】 たくましく しなやかな 心と体をもち 互いを大切に し ともに けんこうな生き方をつくる子
- 【公・開】 ひと 人やまちと かわりあひながら まちに誇りをもち ともに 新しい価値をつくり出す子

「『問い続ける』ことの価値」

校長 羽山 康和

この夏は、「令和8年熊本地震」「令和8年8月千葉豪雨」といった、甚大な被害をもたらした大変な災害が起きてしまいました。被災された方々はもちろん、関係する全ての方々々に心よりお見舞い申し上げます。想像を越えてしまうような状況に、自然災害の恐ろしさを感じます。あらためて、学校における避難訓練を始めとした安全への取組について、引き続き子どもたちとともに真剣に取り組んでいきます。

長い夏休みが終わると、学校には子どもたちの元気な声が戻ってきます。それぞれのご家庭や地域の中で、子どもたちは様々な経験を積みながら過ごしたことと思います。楽しかった出来事、新しいことへの挑戦、思うようにいかなかった経験など、一人ひとりにとって大切な学びの時間になったのではないのでしょうか。また、「ちょっとダラダラと過ごしてしまった・・・」というような反省を持っている子どももいることと思いますが、それも夏休みにありがちなこと。今後の生活に成果も課題も生かせたら素敵です。

近年、私たちを取り巻く社会の変化はますます速くなっています。生成AIをはじめとする新しい技術の進歩、気候変動による自然環境の変化、価値観の多様化など、これまで当たり前だと思っていたことが大きく変わる場面を数多く目にします。数年前には想像していなかったことが、今では日常の一部となっていることも少なくありません。

このような変化の大きな時代だからこそ、子どもたちに必要なのは「答えを覚える力」だけではなく、「なぜだろう」「どうしてだろう」と問い続ける力なのではないかと感じています。

この夏、ある情報番組を観ていて印象に残った言葉がありました。それは、「良い答えを知っている人よりも、良い問いをもてる人が未来を切り拓く」というような言葉です。今の社会では、多くの情報や知識が簡単に手に入ります。しかし、「本当にそうなのだろうか」「もっと良い方法はないだろうか」と考え、新たな問いを見い出して、問い続けていくことには大きな価値があります。

学校教育目標「自分を見つめ ともに 未来をつくる子」の実現に向けて、本校でも子どもたちが主体的に学び、自ら考えることを大切にしています。学習の中で「やってみたい」「調べてみたい」「もっと知りたい」という気持ちが生まれることは、探究的な学びの第一歩です。また、自分一人では見付けられなかった問いに、友達との対話を通して出会えることもあります。問いをもち、考え、伝え合いながら学びを深めていく経験は、これからの社会を生きる子どもたちにとって大きな財産になると考えています。

9月は前期のまとめに向かう大切な時期です。これまでの学びや生活を振り返り、自分の成長や課題について考える機会も多くなります。子どもたち一人ひとりが、自分自身の問いを大切にしながら、自信をもって次の学びへ進んでいけるよう、教職員一同力を合わせて支援してまいります。

まだまだ厳しい暑さが続くことも予想されます。保護者・地域の皆様におかれましては、引き続きみやがやっ子への温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

☆宮谷小のこと、様々な情報発信をしています。「 検索 → note 宮谷小 」